

# 総聯第24回全体大会が行われました

5月26日～27日の2日間東京朝鮮文化会館で総聯第24回全体大会が行われ、全国から選出された約2,000名の代議員とともに県内各支部、団体の代表たちも参加しました。

「愛国歌」の吹奏で開幕した大会ではまず、金正恩委員長が大会によせた祝賀文が披露されました。

続いて23回大会以降の総聯の活動に対して中央議長が報告しました。

報告では去る4年間の活動を総括したうえで、今後の活動の方向性について「かつてない新たな転機が広がる歴史的段階の要求に沿って、総聯をより強化して在日朝鮮人運動の新たな全盛期を早めるための愛族愛国の前進を加速化していくことだ」と強調。24期の課題を5項目に整理して言及しました。

その後各地の代表15名が4年間の活動を誇り高く討論し、今後の決意を語りました。

大会では日本の各党の国会議員や親朝人士10名が会場にかけつけ連帯のあいさつをしました。その中には金日成花金正日花普及委員会名誉会長のデヴィ・スカルノ夫人もいました。

また、大会を祝して送られてきたビデオメッセージの中には日本の個人・団体のものと共に共和国女子サッカー代表選手たちや在日同胞にはなじみが深いピョンヤンホテルの職員たち、韓国やアメリカの友好団体から送られてきたものもありました。

大会では許宗萬議長をはじめ副議長、中央委員が選出されました。

折しも大会期間中の5月26日、電撃的に行われた第4回北南首脳会談開催に関する報道が伝えられ、会場内に設置された大型スクリーンに会談の様子を収めた映像が流され参加者たちは高揚感に包まれました。

今後福島県内では24回大会決定を執行するための総聯本部・支部合同定期大会、各団体の定期大会が行われることになっています。

## 「首脳会談中止」の撤回

トランプ大統領が公開書簡を通じて朝米首脳会談の中止を表明し、すぐに取消した。数日前には朝鮮外務省次官が「北朝鮮がリビアの前轍を踏み得る」というペンス副大統領の発言に対し「朝米首脳会談の再考を最高指導部に提起する」と警告していた。米国はボルトン発言に続き二度目のイエローカードを受けていた。▼朝鮮側からレッドカードを出される前に大統領本人が「(朝米)双方のためにシンガポールでの首脳会談は実施しない」とした。その真意について朝鮮側は自らの見解を示さず、非難も控えた。金桂冠第1外務次官の談話を通じて「いつでも、どんな方式であれ、向かい合って問題を解決していく」と対応するにとどめ、それを受けて大統領の態度が軟化した。▼大統領が側近たちの強硬対決姿勢に従うなら、首脳会談の破たんは避けられない。しかし、会談を中止しても大統領が朝鮮との対話を求めるに至った理由が消えてなくなるわけではない。朝鮮の完成した核武力が米国の国家安全保障上の脅威であるなら、その解消のために朝米関係を改善するしかない。▼金正恩委員長に宛てた書簡には「いつの日かあなたに会える日を非常に楽しみにしている」とあった。「ディールの達人」を自認する大統領は、首脳会談を前に朝鮮に対する強硬姿勢を国内外に示す必要があったのだろう。しかし、最後の一線を超えないように細心の注意を払い、朝鮮も寛大な対応をした。(朝鮮新報5月30日号春夏秋冬)

### 今週の放射線量 (ハッキョ自動測定器)

21日(月)	0.098	25日(金)	0.096
22日(火)	0.094	26日(土)	
23日(水)	0.102	27日(日)	
24日(木)	0.094		

<b>30</b>	<b>31</b>	<b>6/1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>
<b>水</b>	<b>木</b>	<b>金</b>	<b>土</b>	<b>日</b>	<b>月</b>	<b>火</b>
				茨城朝高運動 会		アボジ会チャリ ティーゴルフコ ンペ